

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道54号 <small>かべ</small> 可部バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自： <small>ひろしま ひろしま あさ かべみなみ</small> 広島県広島市安佐北区可部南一丁目 至： <small>ひろしま ひろしま あさ おおはやしちよう</small> 広島県広島市安佐北区大林町			延長	9.7 km
事業概要	<p>一般国道54号は、広島市を起点とし、松江市に至る延長約180kmの主要幹線道路である。 可部バイパスは、広島市可部周辺の慢性的な交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保を目的とした延長9.7kmの道路である。</p>				
S56年度事業化	S56年度都市計画決定 (H14年度変更)	S58年用地着手	H2度工事着手		
全体事業費	約736億円	事業進捗率	83%	供用済延長	8.2 km
計画交通量	16,700~50,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 3.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 121/1,072億円 事業費：93/1,018億円 維持管理費：28/53億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 433/2,383億円 走行時間短縮便益：404/2,170億円 走行経費減少便益：12/155億円 交通事故減少便益：17/58億円	基準年	平成26年
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.9~2.5(交通量±10%) 【残事業】交通量：B/C=3.0~4.5(交通量±10%) 事業費：B/C=2.2~2.2(事業費±10%) 事業費：B/C=3.3~3.9(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.2~2.3(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.3~3.8(事業期間±20%)</p>				
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損失時間の削減が見込まれる ・現道における混雑時旅行速度が改善 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する【桐陽台-大林線、上根-吉田線】 ・安芸高田市から広島駅（新幹線駅）へのアクセスが向上 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸高田市からの農林水産品の流通利便性向上が見込まれる（主な出荷品目：ネギ） ・広島市北部の工場からの流動に対する山陽道のアクセス利便性向上 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡【広島市～三次市】 ・日常活動圏の中心都市へのアクセスが向上【安芸高田市～広島市】 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラスの里資料館（H25年間観光入込客数6.9万人）、広島市安佐動物公園（同48.9万人）、土師ダムへのアクセスが向上 <p>⑤安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次医療施設へのアクセスが向上が見込まれる【安芸高田市消防本部～広島市民病院】 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県緊急輸送道路ネットワーク計画（平成25年6月）において緊急輸送道路に位置づけ有り <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる 				

関係する地方公共団体等の意見

可部バイパスは、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、広島市をはじめとする国道54号改築促進広島県期成同盟会から早期整備の要望を受けている(平成26年7月)

広島市長の意見：一般国道54号可部バイパスの事業評価に係る対応方針(原案)については、異存ありません。

平成26年2月の暫定供用後、国道54号現道の渋滞は緩和しました。

一方、可部バイパスについては、桐陽台団地入口交差点を先頭に発生していた渋滞は解消されたものの、国道191号との交差点では依然渋滞が残存しており、その緩和のためにも、国道191号以南の早期4車線化をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・広島市北部地域は、宅地化が進み、人口増加による通勤・通学交通の増加や広島都心部への交通等により、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度に事業化、用地進捗率96%、事業進捗率83%(平成26年3月末時点)

平成25年度までに広島市安佐北区可部南1丁目～大林ランプ間 延長8.2km(2/4)全線暫定開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、暫定2車線開通後の残る課題に対し、早期に改善・緩和するよう事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

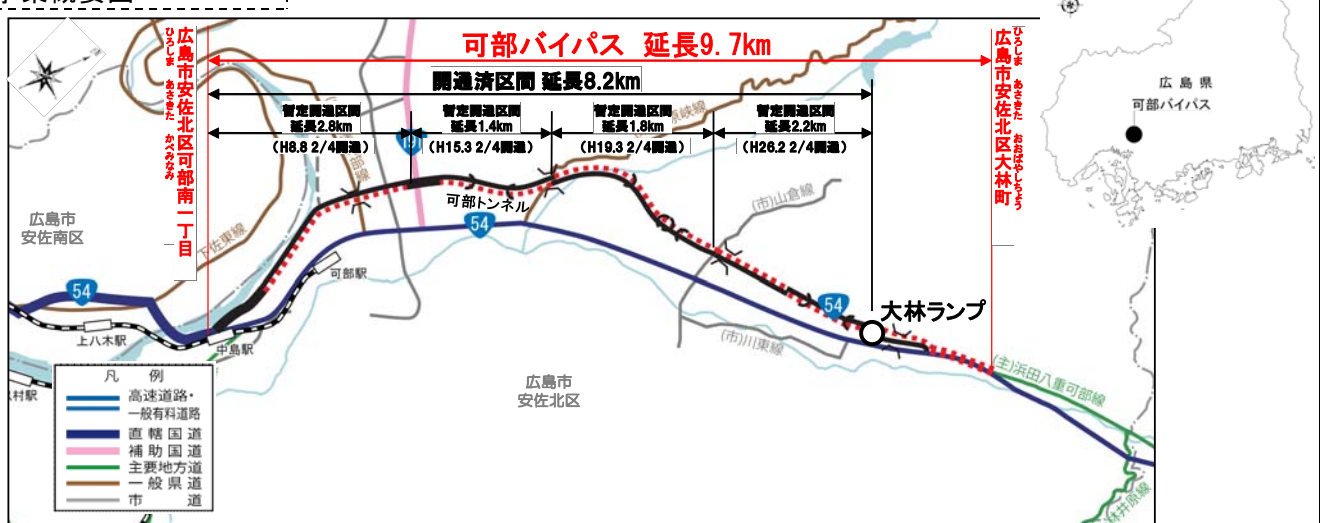
今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。